

令和3年度 学校経営方針

町田市立成瀬台中学校

校長 奥山 拓雄

生徒一人一人が豊かな心を持ち、明るくたくましく未来を生きていくために、東京都や町田市の教育目標を踏まえ「知育・徳育・体育」の調和がとれた教育を推進する。

1 教育目標

- ◎〔自主〕個性を生かし 自ら学び続ける人間
- 〔敬愛〕自他を尊重し 思いやりのある人間
- 〔克己〕困難に打ち克つ 心身ともにたくましい人間

2 目指す学校像

「学校は生徒のためにある」ことを教育活動の基本におき、三者にとって魅力ある学校を創る。

- 生徒にとって「学ぶ楽しさを実感できる学校」「安心して毎日を過ごせる学校」
- 保護者にとって「子どもの成長を期待できる学校」「積極的な連携が図れる学校」
- 教職員にとって「充実感をもって働くことのできる学校」

3 目指す生徒像：（育成を目指す資質・能力）

- 進んで学び、将来にわたって学び続ける意欲をもつ生徒：（学びに向かう力）
- 自らを肯定し、他人を思いやりの心で尊敬できる生徒：（人間関係形成力）
- よりよい生き方を求め、将来の目標に向かって前進していく生徒：（実践力）

4 目指す教職員像

- 生徒理解に努め、生徒の可能性を引き出し、伸ばす教職員
- 研修に励み、授業力の向上に努める教職員
- 組織の一員であることを意識できる教職員
- 服務規律を守り、健康で職務に励み保護者・地域から信頼される教職員

5 学校経営の基本方針（中期的目標と方策）

町田市教育プランを踏まえ、次のような目標と方策を行う。

（1）充実した授業を通して、確かな学力と体力の向上を目指す。

- ① 分かる授業・楽しい授業を実現するために、ICTを活用する教材研究に励む。
- ② 思考力・判断力・表現力(わかる学力)を育むために、各教科の言語活動を充実させる。
- ③ 各教科や総合的な学習の時間の充実を図るために地域の教育力を活用する。
- ④ 学力の基礎・基本(できる学力)を向上させるために、読書活動を推進する。
- ⑤ 体力向上のために、授業と部活動でのウォーミングアップの充実を図る。

（2）生活指導、進路指導を通して、温かくも秩序と規律ある集団づくりを目指す。

- ① 生徒とのよりよい信頼関係を築くために、人権感覚を磨き生徒理解に努める。
- ② 生徒が自らの生き方を主体的に考えられるように、職場体験の充実を図る。
- ③ 教育相談を充実させるために、スクールカウンセラーと連携を密にする。
- ④ 豊かな心を育むために、体験活動や心の教育を充実させる。

（3）特別活動を通して、よりよい人間関係を築こうとする態度を育成する。

- ① 生徒の居場所をつくるために、他を思いやる活動(コミュニケーション)を工夫した学級活動を行う。
- ② リーダーを育成するために、主体的な生徒会活動ができるようにする。
- ③ 生徒に成就感や自己肯定感を体得させるために、しかけが充実した学校行事にする。
- ④ 公共の精神を養うために、勤労・奉仕体験活動を充実させる。
- ⑤ 部活動を推進するために、外部人材を活用する。

（4）教職員の研究・研修の充実を図る。

- ① 主体的、対話的で深い学びの実現のために、ICT活用の研修を推進する。
- ② 教職員一人一人が指導力を向上させるために、組織的なOJTを推進する。

(5) 学校運営を推進する。

- ① 学校運営を推進するために、組織を意識した行動をとる。
- ② 教育活動を改善するために、PDCAサイクルに基づいて職務に励む。
- ③ 教育の質が向上するように、地域と連携した学校運営を推進する。
- ④ 都民の信頼に応えるために、サービス事故（会計を含む）ゼロにする。

6 今年度の取組目標と方策

(1) 充実した授業を通して、確かな学力と体力の向上を目指す。

- ① 一斉授業の中に個別指導を取り入れるなど、指導方法の工夫、教材研究を行う。
- ② 生徒の学習意欲を高めるために、ICT機器を積極的に活用する。
- ③ より精度の高い評価・評定を行うために、常に評価規準・評価材料を見直す。
- ④ 基礎・基本の定着を図るために、学習ボランティアとの連携を図る。
- ⑤ 言語活動を充実するために、意図的に生徒の発表場面をつくる。
- ⑥ 地域の教育力を活かすために、ボランティアコーディネーターを積極的に活用する。
- ⑦ 朝読書を一層充実させるために、図書室の蔵書を増やす等図書環境を整える。
- ⑧ 体力向上、運動に親しむために、工夫した授業展開や部活動を活用する。

(2) 生活指導、進路指導を通して、温かくも秩序と規律ある集団づくりを目指す。

- ① 生徒理解のために、特別支援教育に関する研修を行う。
- ② いじめに対しては、組織的に早期発見・早期対応をする。
- ③ 生徒とよりよく接するために、人権感覚を意識した指導をする。
- ④ 防災教育を充実させるために、避難訓練の工夫と地域連携を実施する。
- ⑤ 心身の健康づくりのために、食育・健康教育を教科横断的に行う。
- ⑥ 職場体験やボランティア活動を充実させるために、外部人材を活用する。
- ⑦ 教育相談を組織的に行うために、スクールカウンセラーと定期的に情報交換をする。
- ⑧ 心の教育を充実させるために、いのちの教育を行う。
- ⑨ 生き方を学ぶために、「社会人せんせい」を活用する。

(3) 特別活動を通して、よりよい人間関係を築こうとする態度を育成する。

- ① 生徒の居場所をつくるために、学級では一人一人を認め合う言動や活動を推進する。
- ② 生徒が安心できるように、失敗が許される学級風土づくりを推進する。
- ③ 学校生活の基本を定着させるために、学級で集団の規律と秩序を確立する。
- ④ リーダー育成のために、地域と連携した活動で意図的にリーダー体験をさせる。
- ⑤ 体育祭、合唱コンクール等の行事で生徒に役割と責任をもたせる。
- ⑥ 校舎内外の環境整備やボランティア活動を通して公共の精神を養う。

(4) 教職員の研究・研修の充実を図る。

- ① 2・3年次及び若手教員の授業力向上を図るため、学期毎の授業研究を実施する。
- ② 主幹教諭、主任教諭が中心になり、組織的・計画的にOJTを推進する。
- ③ ICT機器を効果的に活用するために、指導方法と教材の研究を行う。
- ④ 「特別の教科道徳」推進のために、校内研修を計画的に実施する。
- ⑤ 豊かな心を育むために通常学級と特別支援学級の交流を充実させる。
- ⑥ サービス事故を未然に防ぐために、研修と日常の声かけを充実させる。

(5) 学校運営を推進する。

- ① 組織的な学校運営を推進するために、毎週、企画調整会議を行う。
- ② 学校経営方針を踏まえた学年経営案、学級経営案を作成する。
- ③ 日本人としての自覚と誇りを涵養するために、オリンピック・パラリンピック教育を実施する。
- ④ 組織的な対応をするために、報告・連絡・相談・記録を確実にを行う。
- ⑤ 教育活動を向上させるために、意図的・計画的・組織的に職務に励む。
- ⑥ 地域協働の学校運営を推進するために、学校運営協議会の活動と外部評価を学校改善に活かす。
- ⑦ 学校情報を発信するために、ホームページの更新、配信メールの効果的な活用、学校だよりの定期的な発行を行う。
- ⑧ 小中の計画的な交流を図るために、小中一貫町田っ子カリキュラムを実施する。
- ⑨ 公費・私費とも経費の節減に努めるとともに計画的で適切な執行・事務処理をする。
- ⑩ 教員の健康を維持するために、ストレスチェックを実施する。
- ⑪ 働き方改革を推進するため、校務にC4thを活用する。